

ICD-10(2008年版)について

【経緯】

2009.08 中旬

ICD-10(2008年版)が刊行されることについて、WHO-FICの共同座長で、教育委員会(EC)座長でもある Greenberg 氏より、教育委員会メンバーあてのメールにて改訂版が作成されるとの情報を入手した。

2009.09 下旬

WHO より、ICD-10(2008年版)の冊子(3分冊)が郵送された。

【ICD-10(2008年版)の内容】

2004年小改正+2005年小改正+2006年大改正+2007年小改正+2008年小改正が含まれる。

注：わが国で作成している ICD-10(2003年版)には、1995年以降 2003年までの小改正と大改正+2003年時点で改正が確定していた 2004年小改正の一部+2006年の大改正の一部が含まれている。

【ICD-10(2008年版)の主な改正】

第1巻 (Volume II) : 総論

「4.1.11 原死因コーディングのための注」の修正等

第2巻 (Volume I) : 内容例示

適用済み 183件 未適用 85件

第3巻 (Volume III) : 索引

適用済み 483件 未適用 166件

【今後の対応について（案）】

今回 ICD-10(2008 年版)については、日本は 2006 年改正の一部まで対応済みであること、その後緊急性の高い改正が認められないことから告示改正（日本適用）を行わない。

○一部改正の原則

一部改正の原則は、「基本分類表（tabular list）」については下記の区分により3年ごとの「大改正（Major change）」と毎年行われる「小改正（Minor change）」に分けて改正されており、基本分類表に影響を与えない「索引」については、毎年改正される。

「大改正と小改正の区分」

大 改 正 (Major change)	小 改 正 (Minor change)
<ul style="list-style-type: none">・ 新たなコードの追加・ コードの削除・ コードの移動・ あるコードについて、3 桁分類項目の カテゴリーの変化を伴う索引の改正・ 罹患率もしくは死亡率に関するデータの収集の 精度に影響を与えるルールもしくはガイドライ ンの改正・ 新たな用語の索引への導入	<ul style="list-style-type: none">・ あるコードについて、同一の3 桁分類 項目のカテゴリー内における索引の修正 もしくは明確化・ 内容例示表もしくは索引の強化（例：包含、 除外項目の追加及び二重分類の追加など）・ あるコードについて、概念の変化ではなく 表現の強化・ 罹患率もしくは死亡率に関するデータの収集 の精度に影響を与えないルールもしくはガイ ドラインの改正・ 誤植の修正